

JAPAN FEDERAL MEDICAL COOPERATIVE ASSOCIATION

全医協連ニュース

JMCA NEWS



発行—全国医師協同組合連合会

平成 23 年 1 月 1 日発行

No.119

初茜号

特集

全医協連 第38回通常総会 〈石川・金沢〉

[通常総会・懇親会／金沢観光／ゴルフコンペ]



◆ブロック便り

中部医師協同組合連合会 第36回職員研修会報告
京都府保健事業協同組合／創立60周年記念感謝の集い
平成22年度 第2回医師協四国ブロック協議会の開催報告
九州医師協同組合連合会 第30回通常総会報告

JMCA NEWS

全医協連ニュース
 平成 23 年 1 月 1 日発行

No.119 初巻号

CONTENTS

◆特集 4

全医協連 第38回通常総会〈石川・金沢〉

〔通常総会・懇親会／金沢観光／ゴルフコンペ〕

- 2 年頭所感 小林 照尚(全医協連会長) 原中 勝征(日本医師会会長)
- 12 寄稿 「世界医師会と『ヒポクラテスの誓い』」……岩砂和雄
- 15 医師協の雑誌から 「京都保事協ニュース、西東京医師協同組合」……河辺忠郎
- 16 旅行記 「夏の北海道・サハリンクルーズ」……諏訪求仁雄
- 20 NUMBERS③ 南蛮図……菅原克郎
- 22 葉になる植物 「梅、竹」……渡邊一幹
- 24 寄稿 「石動山散策」……岩動 孝
- 26 旅のブラックエッセイ 「靈魂の町京都に住んで…
御神木の不思議？ 霊能者の感じる神木の気持？」……松井昭男
- 28 水彩の旅 「スケッチ随想／愛しき風景たち」〈第1回〉……大森俊次
- 30 お国自慢 「GOLD松山城」(松山市・桜うづまき酒造)
- 31 全国温泉巡り 「望楼NOGUCHI函館」(函館・湯の川温泉)
- 49 ブロック便り 中部医師協同組合連合会 第36回職員研修会報告
京都府保健事業協同組合／創立60周年記念感謝の集い
平成22年度 第2回医師協四国ブロック協議会の開催報告
九州医師協同組合連合会 第30回通常総会報告
- 59 書籍紹介 「医演同源、神々のワルツ、
死なない！ 生きかた、踰限の旅」
- 64 JMCギャラリー
- 66 全医協連法人契約ホテル一覧

34	【調査企画部】 ・平成22年度 事務局代表者会議開催
36	【購買部】 ・購買部取扱い商品のご案内
44	【福祉部】 ・全医協連取扱い保険商品一覧 ・平成22年「生命保険販売促進キャンペーン」入賞者の声 ・全国医師協同組合連合会LICメンバーの紹介
62	理事会・部会だより／マンガ

- 69 俳壇／編集後記



表紙・目次写真

京都の成人の日は忙しい。早朝より三十三間堂通し矢、都道府県対抗女子駅伝、夜は日野富子所縁の法界寺では、奇祭はだか踊りもある。通し矢は120m離れた的に射るのですが、女子大生には中々命中しません。目次の十二単は伏見稻荷で成人式(元服)行事解説の一場面です。

写真提供(表紙、目次)：瀧野誠一(京都保事協)



特集

全医連 第38回通常総会

全国医師協同組合連合会「第38回通常総会」が、
開催地担当・石川県医師協同組合のご協力により、
平成22年11月6日(土)、ホテル日航金沢で開かれました。
ここでは、総会・懇親会の模様と
翌日行われた金沢観光、ゴルフコンペの様子をご紹介します。

通常総会経過

金沢に於ける通常総会は、真栄田篤彦理事の総合司会により始まり、小林照尚会長の挨拶の後、組合表彰に移りました。広報部はJMCニュースの内容充実に多大な貢献をされた2名の先生に感謝状と金一封を贈呈しました。

石川県医師協同組合 小森 貴先生
京都府保健事業協同組合 栗原真純先生

次に購買部は直接幹旋高、COOP商
品幹旋高、JMCキャンペーン幹旋高、
書籍幹旋事業幹旋高、等において、優秀
な成績を挙げられた次の5組合を表彰し
ました。

北海道医師協同組合

宮城県医師協同組合

京都府保健事業協同組合

高知医師協同組合

徳島医師協同組合

引き続き福祉部は伸展率、伸展掛け金
をポイント化し、優秀な成績を挙げられ
た次の5組合を表彰しました。

千葉市医師協同組合

滋賀県医師協同組合

和歌山県医師協同組合



組合表彰 福祉部



組合表彰 購買部



組合表彰 広報部

下関医師協同組合
高知医師協同組合

続いて、来賓としてご出席を賜りました日本医師会 今村 聡常任理事より、日本医師会 原中勝征会長からのご祝辞代読を頂戴したあと、全国中小企業団体中央会 瀬戸 実理事。事務局長からご祝辞を頂きました。

その後、石川県医協 小森理事長を議長に選出し議案審議に入りました。

第一号議案

平成21年度事業報告並びに収支予算案の承認を求める件

第二号議案

平成22年度事業計画案並びに収支予算案の承認を求める件

第三号議案

平成22年度賦課金決定の件

第四号議案

平成22年度借入金最高限度額決定の件

第五号議案

平成22年度役員報酬決定の件

第六号議案

辞任に伴う員外監事補充の件
ここで新しく員外監事に選出された日本医師会副会長の羽生田 俊先生の挨拶

がありました。

これらの議案は小森 貴議長の名議事進行の下、協議の結果全て承認されました。

こうして議事が滞りなく終了したあと今年度日医の役員改選に伴い員外監事を辞任されました宝住 与一先生に感謝状と記念品を贈呈し、宝住先生より謝辞を頂きました。

来年の総会は東京になり、また40周年記念の年がその次で慣例では3年続いて東京開催になる旨、岩田専務理事より紹介報告がありました。最後に真瀬副会長より閉会の辞が述べられ、無事総会は終了しました。

総会の後は華やかな懇親会の幕開けでした。先ず選りすぐりの芸妓衆による金沢ならではの素囃子の沈めた華やかさで会場を酔わせた後、小林会長の挨拶、地元医協の小森理事長より独特の金沢弁を交えた歓迎の辞で宴は始まりました。料理は金沢の洗練された地の食材による伝統料理、お酒は地酒、地元の芋で作られた焼酎、お酌は芸妓衆、食べて飲んで、喋ってあつと言う間に中締めになりました。用意された二次会への出席は僅かですが多くの方は酔いに任せて金沢の夜を夫々に堪能された事が後で耳に入りました。

(広報部部长 篠崎玄幸)



素囃子



宝住 与一 前員外監事



羽生田 俊 新員外監事



石川県医師協 小森理事長



日本医師会 今村常任理事



全医協連 小林会長

小林会長挨拶

只今、ご紹介いただきました小林でございます。

本日は、ご来賓の日本医師会常任理事今村 聡様、全国中小企業団体中央会理事・事務局長 瀬戸 実様をはじめ、各医師協同組合および地区連合会の理事長、役員、職員の皆様には、ご多忙の中を、第38回通常総会に御参加いただき、誠にありがとうございます。

また、平素より、当会の活動に対しまして、ひとかたならぬご支援、ご協力を賜り、改めて厚くお礼を申し上げます。

今回の通常総会を金沢市で開催するにあたりましては、石川県医師協同組合の小森 貴理事長には快くご承諾をいただき、その上このように立派な総会を設営していただきまして、小森 貴理事長をはじめ役員の方々に、心より感謝を申し上げます。

さて、この1年を振り返ってみますと、日本あるいは日本国民を取り巻く環境が急激に変化していること、それも、ますます厳しくなっていることに驚かされます。政治面では、歴史的な「政権交代」が起きました。民主党政権は、「政治とカネの問題」「普天間基地問題」「郵政問題」などで窮地に追い込まれ、今では「尖閣

諸島問題」などで日本政府の揺れ動く対応が世界から疑問視され、日本政府の明確で信念のある基本方針の提示を世界各国から求められています。

経済面では、2年前の平成19年9月におこった米国証券会社リーマン・ブラザーズの破綻により、先進国の不況は深刻になり、なかでも欧州連合の一部の国では国家財政の破綻が危惧されています。

昨年11月のオバマ米大統領の来日の際の演説の中で、「ドル安政策によるアメリカ経済の建て直し」をうたっておりましたが、今では先進国が競って自国通貨の安値誘導による経済の立て直しを目指す、という異常な状況を呈しています。そのなかにあつて日本政府は動かず、その結果、急激な円高を招き、輸出を中心にさらなる景気後退という厳しい状況になっています。

また、医療・医薬業界にも深刻な影響を与えています。診療報酬改定による社会保障費2200億円の削減が今年になって撤廃はされたものの、過去数年にわたって続いた削減により、医師も国民も生活そのものの劣化をよぎなくされています。

そうした厳しい環境変化は、全医協連および各医協にも多大な影響を与えています。購買商品においても、保険商品にしても従来通りの取り組み方では、商品を購入してもらえない状況になりつつあり、組合員のニーズにあった多様な商品、斬新なアイデアが必要となってきました。

今、私たちは、各事業分野において、様々な取り組みにチャレンジしています。福祉事業では、コンプライアンスによる不況、サブプライム問題以後の不況等により、ここ5年間の全医協連の年間収納保険料および保険手数料収入は減収を続けており、この現象は各医協においてもほぼ同様と思われます。

保険手数料収入の減少に歯止めをかけるとともに、各単組の福祉事業への支援と組合員のニーズにこたえる一つの対策として、小額短期保険事業化チームを設置し、専門家を交えて独自性のある商品の研究と「小額短期保険」の事業化調査を続けております。

一方、政府・金融庁は昨年末に、公益法人等の無認可共済・互助会を救済する目的で「共済新法」の制定を図り、結果として「保険業法改正」案を本年5月国会へ提出しました。現在、同改正法案は継続審議扱いになっており、次期臨時国会で審議されることになっておりましたが、一昨日の11月4日 第114回通常国会において、「保険業法改正法案」は衆議院本会議で可決、参議事業を旨指して検院へ送られ、今国会での成立見込みとなりました。この法案の成立により、廃業した無認可共済の復活が一定の条件はつくものの可能となり、全医協連としては、福祉事業計画の一つとしてより良い共済を検討していきます。

購買事業では、新型インフルエンザ流行に伴う各医協からの要望に関連商品の備蓄を目的として特別予算を計上し、迅速な対応に努めました。

丸善と提携した書籍斡旋事業も軌道に乗り、購買事業の柱となってきており、今後より事業の発展を図れるよう検討しております。魅力ある新商品の開発と、第2、第3の丸善類似事業を模索検討しております。

協同組合は、会員個々の力は小さくても、多くの会員が集合し団結することによって大きなちからとなり、会員の経済的地位の向上や医業の健全なる発展の原動力になり得ると思っております。

最後にあたりまして、皆さまの1年間に亘るご支援とご協力を賜りましたことに深く感謝を申し上げますとともに、皆さまの益々のご健勝とご繁栄を祈念申し上げます。私の挨拶といたします。

祝辞

日本医師会会長 原中 勝征
(今村常任理事代読)

全国医師協同組合連合会第三十八回通常総会を開催されるにあたりまして、日本医師会を代表して、一言ご挨拶させていただきます。

全国の医師協同組合におかれましては、組合員の多様な生活ニーズに応えて、医

業経営の安定、医師福祉の向上に大きな成果を挙げてこられました。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

さて、わが国の経済は、米国発の金融危機に始まった深刻な経済不況からなかなか脱することができません。その後もギリシャ危機など、世界のさまざまな地域で、大きな財政・経済問題が発生しています。わが国でも経済不況は税収に深刻な影響を与え、その結果、社会保障費が削減対象にされるといった事態が進行しています。

しかし、そろそろ財政が医療の枠を決めるという考え方には訣別しなければなりません。医療をはじめとする社会保障の充実こそが、経済の再生産を労働力の側面から保障し、国民が不安なく生活できる社会の実現を後押しするからであります。

昨年の政権交代は、こうした国民の声により実現したものであり、私たち医療関係者は、国民の要望に沿う医療政策の実現に力を注いでいく必要があります。地域医療は長年の医療費抑制政策により崩壊の危機にあり、医師の個人的な努力は限界点に達し、多くの医師が疲弊しきっております。もちろん、限られた医療資源を有効活用することは、当然ですが、地域において安定した医療を提供し続けるためには、医療費を増やし、医療機関の経営を安定化することが不可欠です。

医師協同組合は、低廉で良質な各種の保険商品や医療機器等の物品を組合員に提供するなど、地域医療の現場にある医療機関にとり、誠に力強い支えとなつていくところであり、今後とも、医師福祉のために大いに尽力くださるよう、ご期待願ひ申し上げます。

結びになりましたが、貴連合会の今後益々のご発展を祈念するとともに、今総会の開催にご尽力された貴連合会の小林会長、石川県医師協同組合の小森理事長、そして役職員の皆様並びに本日ご列席の皆様のご健勝と、総会の成果が実り多いものであることを期待し、挨拶いたします。

歓迎の辞

石川県医師協同組合理事長
小森 貴

皆さん ようこそこの金沢の街に来てくださいました。

本当にありがとうございます。

協同組合 1844年にイギリスのマンチェスターで発足をしたのがはじめてというようにお聞きをさせていただきます。現在世界で8億人という組合員数、世界で最大のNGO 非政府組織であります。

全国医師協同組合連合会も昭和48年の1月に発足以来、今では58組合 3800人以上の組合員を抱える大変大きな団体になりました。

平素から小林会長をはじめ多くの役員、職員の方々に支えられ、私共地域の医療機関が大きく発展をしていく礎を作ってくださいますことを 私の立場からも改めてお礼を申し上げますと思います。

今、ご覧をいただきました三茶屋街によります、この ひがし にし 主計町の三つの茶屋街には50名を超える芸妓さんがいらっしやいますけれど、それぞれ踊りも音楽もお謡いも流派が違つてございます。皆さんのために三茶屋街から5名ずつでいていただいて大変練習を重ねた結果ということでございます。茶屋街からも皆さんをご期待申し上げますこととでございます。

ご満足いただけましたでしょうか。

歴史を紐解きますと630年頃に越の国が越前、越中、越後に分かれたということとございます。加賀の国、能登の国はそれぞれ一時は越前と一緒にあったり越中の国と一緒にあったりしたのち、823年にこの加賀の国がさいごの国として成り立ちました。その後1600年になりました。前田利家公が金沢に入閣して以来、120万石の城下町として全国で東京、大阪、名古屋、京都に次ぐ第四の都市として300年間を過ごしてまいりました。ずっと大きくて今小さいところにあるものをお楽しみいただきたいと思ひます。

古い伝統の街と思われていますけれど、

伝統は革新の連続であります。

金沢、石川は、歴史都市第1号として国に認定されたほか、ユネスコによります創造都市ネットワーク、全世界で25都市が登録をしております。金沢も名古屋と神戸とともに登録をさせていただいておりますのが、京都・奈良とともに世界歴史都市同盟に参画をさせていただいております。わけても日々の研鑽をつまれた職人さんがたいへん多い街でございます。人間国宝が多い街でございます。明日街をお歩きになられてそういう風情のお方とすれ違ひましたら、軽く会釈をしていただくと だいたいその方が人間国宝ということでございます。また能登では、豊かな海、大変残念でございますが、今日がずわい蟹、香箱蟹の解禁日でございます。今日、今、漁に行つておりまして、なんとか一隻だけでもここに戻したいと願ひをしたのですが、今日はずいぶんとれて帰れないと海上からの連絡でございます。今日の席には間に合いませんでした。明日、近江町にはたくさんのお蟹が並ぶと思ひますので、たくさんお買い上げをいただきます、ぜひ特に香箱蟹 隣の福井ではせいこ蟹といひますけれども、メス、内子が大変美味しゅうございます。様々な都市でずわい蟹、オスはお食べになることが多いと思ひますけれども、香箱蟹メスを賞味なさることはあまりないと思ひますので、ぜひお買い



兼六園

金沢観光

になられてお家でご家族とともにお楽しみただければと思います。また加賀にはすべての命の源であります白山がございます。そこから流れる豊かな水が彩りも鮮やかな加賀友禅や九谷焼を生み、そしてそこに並んでおります、また皆様には今日は飲んでいただきます多くの美味しいお酒を生み出してくれました。また今日、お土産としておつけしております金沢石川の誇る第10代大樋長左衛門氏の作

陶になられました湯呑でございますけれども 普段使いでございます。文化功勞者になられましてもう何年も経っておりますので、陶芸の分野では最も文化勲章に近い人ということでございますので、お家に帰えられたら普段のお茶もひとしおではないかなと思っております。 本当に多くの方に来ていただきました。最後に今一度金沢弃でご挨拶を申し上げます。何を言っているのかわからない

と思いますので先に標準語で訳を述べさせていただきます。皆様遠くから本当に来てくださいます。ありがとうございます。心の底からゆつくりとのんびりしていただきたいと思います。 みなさん えんじょから来てくださいます。ほんとにあんやとございました。 いんぎらつと のんびりおんぼらつと してつたいね。

愛媛の片田舎で生まれ、道後温泉で有名な松山で育ち、東京の大学を出た私にとつて、日本海は見たことがない。金沢は、昭和56年に某演歌歌手が発売した「金沢の夜」という歌があるが、犀川、香林坊との歌詞があり、紅殻格子、角巻、積もった雪など、寒いところの印象である。この唄は殆ど売れなかつたと記憶している。能登半島と金沢の位置も、全くわからないまま金沢に着いた。

1日目の総会・懇親会も予定通りに終り、2日目は、ゴルフ組と観光組に分かれた。4台の観光バスに分乗し、私は1号車であった。まず、大樋美術館に向かった。十代大樋長左衛門氏は小柄ではあるが眼光鋭く、独特の雰囲気のある人物、茶道の流派の説明を受けたが「何か、ようわからん」というのが記憶に残っている。展示品を見学し、即売場へと向かう。買おうと思つたが、一桁違うので買わなか

つた。いや、買えなかつた。バスに乗り込み、10分足らずで、金沢城公園に到着した。金沢城はさすがに加賀100万石、そのスケールの大きいこと。天守は400年ほど前に落雷によつて焼失したそうだが、石川門や五十間長屋の綺麗なこと。鉛瓦の重々しい美しさに見とれ、見学時間の40分は慌しく過ぎ、10時となつた。 次の目的地は兼六園である。その頃になると、歩き疲れて足が痛くなり、何人かは茶店で休憩となつたが、これが見納めかもしれないと思いついた。雪吊りを初めて見て、なんだろうと思つたが、ガイドさんの説明を聞いて納得。この時、もう少し予習をしておけばと後悔した。最後にみやげ物売り場で、箸と提灯を買つた。11時になり、バスに乗り込んだ。次は、金沢ひがし茶屋街(ちややがい)である。金沢市指定保存建造物である「懷華楼」の見学をし、女将お薦めの

ゴルフコンペ

一般道から高速道路に乗り、バスは走る。ガイドさんによると、今日の様な穏やかな天気は珍しいとのこと。遠くに白山連峰を望む、頂きは雪をかぶっている。途中、高速道路の道の駅？大きいドライブインで休憩。早速、昨日解禁となったズワイガニを購入。宅急便で注文したバスからであったが、あの松井秀喜選手の実家も拝見し、3時過ぎには小松空港に着いてしまった。慌しく過ぎた金沢観光であったが、次は、ゆっくりと見て回りたい、もう一度行きたいとの思いが残り、味のある日曜日であった。

今回の企画をされた石川県医師協同組合及び全国医師協同組合連合会の皆様に感謝いたします。初めての金沢、楽しく、しつとりとした思い出を有難うございました。

(広報部部員 河辺忠郎)

和菓子である「金澤の華」を購入した。2号車、3号車が先に見学し、どちらのお客様が多くお菓子を買ったなど、商売上手なこと。2個買ってしまふ。町並みは江戸時代の雰囲気を残しているといわれ、金箔細工などを覗きながら歩いていたら、時間にせかさればバスに乗り込んだ。バスは浅野川大橋を渡り、先程の大樋美術館を左手に見、香林坊、片町、寺町を抜け昼食場所の「つば甚」へ到着した。2、3、4号車は先に到着し、1号車の我々が最後であった。200畳の大広間で上品な加賀料理を頂き、1時40分に料亭を後にした。ビックリしたことは、当院の外来看護師とものすごくよく似た配膳さんがいたこと。記念写真を彼女と撮って、帰ってからパソコンで再現した。うちの看護師は、見るなり「ウェー、見にいかなんいけん」。



東茶屋街



懐華楼



つば甚

総会翌日、ゴルフ組は片山津ゴルフクラブで開催され、全国から集まったゴルフア54名の参加がありました。同コースは金沢市から約50分で、かつ小松空港からは10分で福井県に近いところであり、来場者は襟つきのウエアで、プレーヤーか背広で来ること、ジャンパーでの入場お断りとエチケットに厳しい名門ゴルフ場です。早朝5時50分集合もゴルフとなる遅刻者はいなく、皆昨夜の総会懇親会の疲れか、コース到着まで居眠りする人もいました。スタート前の開催者代表として、力丸修前石川県医師協同事務理事からは「快晴の秋晴れのもと、本コースで日頃の腕前をご披露いただき、楽しんでいただきたい」と歓迎の挨拶がありました。スタート前の恒例の全員集合の記念撮影も54名のプレーヤーが勢揃いで、スタート前の緊張感が溢れていました。アウト・イン同時スタートで、競技が始まり、名門コースらしく、コースの仕上がり、グリーンコンディションも最高で速く、3パット、4パットしたとかの話が上がっていました。

競技成績は以下の通りです。なお表彰の際、小林会長から「勝つべく努力された方が優勝しています」との言葉に、



ゴルフ大会参加者



優勝した和歌山県 橋本忠美先生(左)と小林会長



力丸 修 前石川県医協専務理事

15組54名のプレーヤーの頂点に立たれたのは…

優勝

橋本忠美(はしもと・ただよし)先生(和歌山医協) グロス78 ネット71

準優勝

池田久基(いけだ・ひさもと)先生(岐阜医協) グロス83 ネット71

第3位

吉田英道(よしだ・ひでみち)事務局長(名古屋医協) グロス92 ネット72

もしかして自分かもと多くの参加者がわくわくするなか、発表が行われましたが、このゴルフ大会は来年、再来年も開催できないとの報告には全員が落胆している様子でした。東京での総会開催時は慣例としてゴルフ大会は無いからです。大盛會裏に終了した片山津ゴルフ場での開催の準備をして頂きました石川県医協のスタッフの皆様へ感謝申し上げます。

(広報部部員 真栄田篤彦)



世界医師会と“ヒポクラテスの誓い”

岐阜県医師会 名誉会長
岐阜県医師会協同組合 名誉理事長

岩砂 和雄
いわさ かすお

私は平成12年4月より岐阜県医師会会長を6年間、平成18年より唐澤会長のもとで日本医師会副会長を4年間務めました。そして日本医師会では国際関係を担当し、その関係で世界医師会(WMA)の副議長を3年間務め、各国の多くの方々と親交を深め意見交換をしてきました。また世界医師会総会には平成12年より10回参加してきました(2001年のインド大会はニューヨークの9・11テロ事件により中止)。私はこの度、2010年10月にカナダのバンクーバーで開催された本大会に準会員として参加しましたので、この機会に世界医師会(WMA)をご紹介させていただきます。

WMAは、1947年9月17日、27カ国の医師が、パリで第1回総会を開催して設立され、現在は約97ヶ国の医師会が加盟する組織に成長しました。その基本的課題としては、世界の医療界が共有すべき医の倫理、社会医学分野の課題をWMA政策文書として作成して国際社会に提示すること。また、WHO、国際赤十字などの他の国際機関とも緊密な連携を保ち、その活動内容の充実に努めています。

WMAの根幹をなす理念は1948年に採択された「ジュネーブ宣言」であり、多くの宣言や声明はこれに基づいて作成されています。「ジュネーブ宣言」は古代ギリシャの医学アカデミーの一員であるヒポクラテス(紀元前460年)のオルコス(…医師の誓い)に基づくものです。その「オルコス」には次のように明記されています。

医師の一人として参加するに際し、

- 私は、人類への奉仕に自分の人生を捧げることを厳粛に誓う。
- 私は、私の教師に、当然受けるべきである尊敬と感謝の念を捧げる。
- 私は、良心と尊厳をもって私の専門職を実践する。
- 私の患者の健康を私の第一の関心事とする。
- 私は、私への信頼のゆえに知り得た患者の秘密を、たとえその死後においても尊重する。
- 私は、全力を尽くして医師専門職の名誉と高貴なる伝統を保持する。

以下は略しますが、WMAの活動においてこの理念は、普遍的でその根幹をなすものです。そこには人種、宗教、国籍

文化、貧富にとらわれることなく、医師として病に苦しむ人々に奉仕することを誓っています。したがって、新しい医療技術の進歩や価値観の変化が、医師の達成すべき究極の使命を後退させるような影響を与えてはならない、というのがWMAでの議論の出発点で、常にこれに基づいて既存の文書の見直しや、新たな声明が採択されてきました。

WMAの基本文書と呼ばれる主たるものは以下の通りです。

- ① ジュネーブ宣言(1948年)
- ② 医の国際倫理綱領(1949年)
- ③ ヘルシンキ宣言―ヒトを対象とする医学研究の倫理的原則(1964年、最近では2008年に大幅修正)
- ④ リスボン宣言―患者の権利(1981年、1996年に大幅修正)
- ⑤ ソウル宣言―プロフェッションナル・オートノミーと自己規律(1987年、2008年に大幅修正)

ジュネーブ宣言のような医の根本原則を謳った文書はそのオリジナルの姿を変えることなく現在も存在し続けています。しかし、多くの文書はそれが採択された当時の社会政治状況を反映するものであ

り、環境が変化するたびに文書の内容は修正を余儀なくされています。

こうしたことを踏まえてみると、最近の動き、とりわけ2010年10月に開催されたWMAバンクーバー総会の議論として次のことが注目されます。

ひとつは、ヘルシンキ宣言の修正の問題です。この宣言は特に新薬の開発に伴う研究に医師が関与する場合に、人間が対象となるような研究に際して医師はどのような姿勢で臨むべきかという倫理的ガイドラインです。長いこと問題となっていたのは、治験におけるPlaceboの使用を認めるべきか、また途上国での治験における被験者の人権をどう守るかという点です。多くのヨーロッパ諸国や南米はPlaceboの使用に慎重で、他方米国はPlacebo使用の現実を認めるべきとしています。2008年のWMAソウル総会ではヘルシンキ宣言のPlacebo以外の部分では大方の合意ができましたが、Placeboについては別途作業部会を設けて引き続き中身を検討することとなりました。今年のバンクーバー総会では作業部会が開催されましたが、意見の集約が見られず、WMAとしては、2011年のウルグアイ総会で何らかの合意を得て、現行のヘルシンキ宣言の当該部分の表現



Danaカナダ医師会会長を囲んで



会場風景



日本医師会より参加の先生方と



コロンビア大氷原をバックに

を修正したいとしています。2008年に大幅な修正が行われたヘルシンキ宣言は、おそらく数年後にまた大きな修正が行われると予想されます。この宣言がジュネーブ宣言の下で現実をいかに反映する宣言となるかが注目されます。

もうひとつは、前記⑤のソウル宣言にかかわる文書で、内容は医師の処方権です。これは処方権というものが北欧、英国、カナダなどの国では医師以外に看護師や薬剤師が有しており、アジアを中心とした諸国では、法律で処方権は医師のみに存するとされています。これはまさにProfessional autonomyの問題です。この問題はWMAの会議ですでに5年前から議論されてきており、なかなか意見の終結を見ない案件でした。そこでCMAAO(アジア太平洋医師会連合)の加盟国の支援を得て2010年、日本医師会と韓国医師会が共同提案という形で、上記の現実を踏まえた決議案を作成しました。その中では、処方権が医師にあることは明白であること、しかし社会情勢によってはそれができない場合もあり他の職種が処方を行う場合があるが、それはあくまで医師の監督下で行うべきであること、また途上国での医師不足による非医師による処方については、その国の

政府は、医師が処方を行うか監督できる立場を確保できるように社会経済の確立につとめるべきで、医師会はそのを支援することとされています。最終的には、処方権は医師が保有することが根本原則であることは合意され、あとはそれぞれの国が法令に基づいて実際の医療現場を動かしてゆくこととなります。WMAとしては、医師のProfessional autonomyを守るためにはどうしてもこの問題をバンクーバー総会で決着させる必要があったと思われれます。

以上のように、最近のWMAの動きとしては、WMAの根本原則を再度確認して、その合意形成された事実を世界の医療界に開示するというのが特筆されています。そしてこれらの動きの底辺には常にジュネーブ宣言、すなわち紀元前のオルコス(…ヒポクラテスの医師の誓い)が脈々と生き続けていることです。私はWMA総会に参加する度に、激しく変動し続ける混沌とした世界で、この理念が時空を越え変わることなく、病に苦しむ人々のために勇気と活力を与えてくれていることに感動をおぼえます。



写真2



写真1



写真5



写真4



写真3

二ヶ所に癌を抱え込んで、もう遠方には行けない。そうだ横浜発横浜着の船旅行という手がある。手元も不如意になつてきた。飛行機のビジネス代金でお釣りが来る。死ぬまで欲の塊の我が心に苦笑する。

7・23(金) 家を出て、横浜の大栈橋で、飛鳥(あすか・日本船は初めて)に乗り込む迄の時間が約4時間、フラフラのこの老人でもなんと楽チン。後は出てくる和食(私は洋食は苦手)を平らげて、ベランダに出たり、ベッドにゴロリ・ゴロリ、まさに病院船に乗り込んでの旅の始まり(写真1、2)。

7・24(土) 終日クルーズ。東北地方より30マイル位離れた太平洋上を時速16ノットで小樽に向かって進んでいるようだ。朝食の美味しさに気を良くして彼方此方見て回る。5万屯余り、まあまあ外国船にそんなに引けはとらないぞと一安心。午後には講演がある。

小林和男さん(註)の「サハリンと北方領土」の話に同感。夕刻、今日はフォーマル日。これで10回目の船旅とも、タキシードは無いので一張羅のダークスーツ(なんと何時も冬服)と、お気に入りの赤のネクタイの出で立ち(写真3)。圧迫骨折で曲がつて縮んだ腰を無理矢理伸ばして、就任ホヤホヤとの浅井船長の歓迎パーティ

イに出席。その足で予約の寿司屋に直行(写真4)。

7・25(日) 小樽。午前4時ベランダに、素晴らしい快晴の日の出、積丹岬もやがてであろう。早速、上旭日積丹岬と題して七言絶句を詠む。小樽は何度も訪れているのでツアーには不参加。昼食は此処の寿司は日本一と聞いてきた店(伊勢船)に予約してハイヤーで。なるほど美味い。子持ちしやこ・いか・雲丹(バフンうに)兔に角、今が旬のものばかり。いかの塩辛(夏場は他の物は駄目)を土産にと送る。帰りは下り道、運河を眺めて折からの夏祭りの人混みを避けながら船に(写真5、6)。快晴のお天気に12階のプロムナードデッキを歩く。紺碧の空と船体の白とが如何にも美しい(写真7)。

7・26(月) 利尻島。利尻富士がちらりと見えた(写真8)。

早朝、揺れがきついのを目を覚ます。あんなに昨日は良いお天気だったのに、晴れ男の面目まるつぶれ。飛鳥は目の前の利尻島・鴛泊(おしどまり)港の沖合に停泊し、小型の台風の通過を待つようだ。午前9時、テンドーボートで老人が多いツアー客を、この波で運ぶのは危ないと判断されてか、利尻・礼文島のツアーは中止。期待していた高山植物の宝庫、花の浮島と呼ばれる礼文島の花も、昨日小



写真6



写真7



写真8



写真9



写真10

樽の伊勢鮓で食べて美味しかった、パフン雲丹の丼も此で駄目かと溜め息。船は宗谷岬(日本の最北端)を廻って、網走へとゆつくり進み始めた。

7・27(火) 網走。色々のツアーの中、老齢と病後を考えて知床一日観光を選んだのは私には正解であった。小清水原生花園(礼文の花の浮島の小さいものか)、森繁さんの歌にあるハマナスをパチリ

(写真9、10)。オシンコシンの滝をみて、日本最北端の道の駅(新鮮な魚介類が殆ど)で、魚好きの私、もう少し逗留時間を取ってくれたら良いのと言いながらあわてて土産を送る。昼の知床第一ホテルの和食も美味しい、魚の新鮮さが違うからだろう。ウトロ港からの知床遊覧は、どんよりとしていたお天気も急によくなって、船上からの碧い海と蒼い空の下、羅臼岳をバックに絶壁の奇岩・洞穴に歓声(写真11)!! バスでの帰り道は途中よりまた雨だ。

7・28(水) コルサコフ。いよいよサハリン(樺太)の半日観光(私は午前を選ぶ)、またもどんよりとしていたが、今度はテンドーボートでコルサコフ(大泊)の漁港に渡る。みすぼらしい港で、厳めしい兵隊にバスポートを見せて、無言で韓国製のバスに乗り込んでヤレヤレ。現地のガイドエレナさん、ただたどしい日本

語だが、私の色々な質問にも丁寧に答えてくれたのには感心した(写真12)。

北海道の最北端の宗谷岬から北に僅か43キロ離れた所に位置するサハリンは、南北950キロ・面積は北海道とほぼ同じ8万7千平方キロメートル、人口は54万7千人と云う。

現在サハリンはロシア連邦ロシア共和国に属し、行政区分ではサハリン州で、人種は、ロシア人、ウクライナ人、韓国人、それに原住民の少数民族が暮らしている。日本とのかかわりは、江戸時代松前藩が交易を、間宮林蔵の探検・調査も行われている。日露戦争に勝利した日本はサハリンの北緯50度以南を日本領として「樺太」と呼び、豊原(ユジノサハリンスク)に樺太庁を置いて40年間統治した。

コルサコフからユジノサハリンスクへはバスで50分、綺麗な広い道は快適で石油・天然ガスでの経済の豊かさを偲ばせた。雄大な農地「ダーチャ(郊外の別荘)」に目を見張る。ユジノサハリンスクはやはり州都だけあって立派な街である。行政・経済・文化の中心点で人口は18万人。州行政府や鉄道局・大学・博物館がある。戦勝広場ではレーニン像の前に立って記念写真、何か複雑な気持ちが私の心をよぎった(写真13)。

帰りのテンドーボートは揺れがきつく、空模様も今にも降り出しそう、午前の観光にしておいてよかったねと飛鳥の船室へ。



写真12

写真11



写真15

写真14

写真13

7・29(木) 終日クルーズ。インフォーマル日。上着だけは着て夕食に。食べ物は決して不味くなつたわけではないが、おなが一杯で食べきれない。やはり此からは2泊か3泊の船旅がよさそう。午後再び小林先生の講演会「ロシアのキツネとタヌキ〜ロシア人の心〜」と題してお話された。これまた私の心をゆさぶった。

7・30(金) 函館。今日のツアー大沼国定公園散策を選ぶ。40年前に駒ヶ岳の麓近くの山林を藤田観光にうまく売りつけられた箇所がある為手伝って(欲呆け?)の参加でもあった。ツアーの人数は少なかつたが、小林先生のご家族も一緒に、色々お話しできてよかつた。しかへ間欠泉公園では足湯につかりながらの間欠泉見学としゃれこむ(写真14)。大沼湖を船で一回りしたが一番見たかつた駒ヶ岳は頂上付近の雲で見ることが出来ず残念であつた。

7・31(土) 終日クルーズ。フォーマル日。帰りの支度で船長とのお別れ会は欠席。

8・1日(日) 最後のお粥の朝食全てを平らげて、午前10時の横浜の大栈橋着岸を待つ。横浜のビル街が霞んで見える如何にも暑そうだ(写真15)。

これで初めての横浜港往復10日間の船旅は終わったが、異常気象の為か?今時

期の北海道は最もすつきりした夏空と思ひ込んで出掛けたのに、見事に当ては外れ。気温はさすがに涼しくて、猛暑続きであつたとの岐阜とは大違いでその点は助かつた。

なおいち番の見所、利尻・礼文島に上陸できなかったお詫びにと利尻富士町より利尻とろろ昆布全員(800名?)に戴いたのと、此の船旅の参加者に限つて、9月の3泊4日の仙台往復の船旅が半額にとのサービスに驚く。また聞いてはいたが、飛鳥を下りる前に来春の世界一周クルーズを申し込む客の多いことと、既にこの船で700泊以上という飛鳥ファンのお方と共に食事して、常にロイヤルスイート(82平方メートル、飛鳥に4室あり。一人二十万円余、世界1周で2500万円)という方が大勢いるとの話に、とんでもないお金持ちも居るものだなと舌をまく。ところで、車椅子、ヨチヨチ歩き、腰の曲がつたお年寄り(私自身をふくめて)の多いのに驚く。平均年齢は75才以上か?少し私も氣は楽になつたが、高齢化の波はこの船旅にも押し寄せて来ていると痛感した。

(注)・1940年、長野県生まれ。62年、NHK入局。70年からモスクワ特派員、84年からはモスクワ支局長を務める。ソ連崩壊の報道で第40回菊池寛賞受賞。現在作新学院大学特任教授。サイトウ・キネン財団評議員。著書に「エルミタージュの緞帳」(第46回日本エッセイスト・クラブ賞受賞)、「狐と狸と大統領ロシアを見る」(1ブロードの塩 ロシアで出会った人々) (すべてNHK出版)

今回は、新年号となるため、おめでたい生薬を考えてみました。そこで民間生薬は梅を、漢方生薬は竹を取り上げてみたいと思います。



京都保事協
わたなべいつかん
渡邊一幹

竹の幼少、竹の子は古事記にも出てくるほど古くから食べられていたようです。一般に3~4月に出回るタケノコはマダケ属の孟宗竹のタケノコが多いのですが、東北などでは5~6月にもササ属の根曲がり竹が食卓に上ります。採りたては味噌汁や焼きタケノコにしても美味です。タケノコを茹でると出てくる白いアクは、今流行の脳活性化の神経物質ドーパミンやノルアドレナリンの原料となる芳香族アミノ酸のチロシンです。最近このチロシンはボケ防止、認知証やパーキンソン病の予防にも効果があるかもしれないなどと言われています。タケノコが4月前後に出てくるのも、気分が落ち込んでおこる五月病を防ぐ、自然の啓示かもしれません。またタケノコには食物繊維が多いため、便秘や大腸癌の予防、コレステロール抑制などに効果があります。タケノコの皮は防腐効果があるため昔からおむすびなどを包むのに用いられています。漢方では竹筴を焼いて出てくる汁を竹瀝といい、性味は甘・寒で、経絡は心・肺・胃経に入りこれらの経絡の熱を冷まし、しつこい痰を出易くし、胸の煩悶やそれに伴う手足のしびれやひきつりを解消するため「痰家の聖薬」と言われています。また竹の表面を剥ぎ取って、皮下の部分を薄く削ったものは竹茹といい、性味は甘・微寒で経絡は肺・胃・胆経に入り、しつこい痰を出し易くすると共に神経過敏・不眠・不安などに利用します。また血を冷まし安胎の効能もあるため、妊娠嘔吐や切迫流産の時などにも使用されます。さらにハチクの葉は竹葉と言ひ、性味は辛甘・寒で経絡は心・肺経に入り風邪の初期の微熱や咽痛に使用されます。またその新鮮な若葉(竹葉卷心)は気持ちを静め、イライラを解消する作用があります。この竹茹が入った漢方薬で、保険に通っているものは、感気管支炎・肺炎などに使用する清肺湯や呼吸器疾患後の不眠症などに使用する竹茹温胆湯などがあります。



キンメイモウソウ



ハチク



ネマガリタケ



タケノコ



竹の子ご飯

●漢方エキス写真



清肺湯

竹茹温胆湯

薬 にな る 植 物

梅 は中国原産のバラ科の植物で、日当たりが良く、水はけの良い場所に植えられています。

晩冬～春にはいち早く花をほころばせ、人々に春の近いことを感じさせます。ご存知のように花は白色・淡紅色・紅色があります。また梅の実の大きさも小型・中型・大型とあり、内容も果肉が厚いもの薄いもの、酸味の強いものそうでないものと種々あります。黄熟する前の青梅は、梅干・梅酒・梅酢・梅肉エキスなどに利用され、紫蘇で漬けた梅干は、クエン酸などの有機酸を多く含むので、水あたり・食欲不振に、また風邪をひいた時、黒焼にした梅干に熱湯を注いだものを服用することで、発汗解熱などに利用されます。梅干は防腐・殺菌の効果があるため、日の丸弁当やおむすびにも利用されてきました。梅酒は水や炭酸水で割って、胃腸の働きを活発にするため食前酒に、疲労回復や大腸の働きを良くすることから寝酒などに、梅酢は夏場の食欲不振や暑気あたりに、青梅の果肉を磨り潰して煮詰めて作った梅肉エキスは、下痢・嘔吐・腹痛などに利用されます。漢方での利用は、自然落下した未熟果実のタネを取り除いて燻製にしたものを烏梅うばいといい、これを生薬として利用します。烏梅の性味は酸渋・平で経絡的には肝・脾・肺・大腸経にはいり、止血・鎮咳・去痰・止痢・解熱・口渴などの効果があるため、他の生薬と配合されて慢性咳嗽・出血性下痢・子宮出血や消化不良・腹部膨満、そして虫下し(蛔虫症)などに使用されます。



梅の実



上から — 紅梅、白梅、淡紅梅



最高級紀州南部の梅干
(皮薄肉厚)



30年もの梅干



20年もの梅酒



11月6日に全国医師協同組合連合会第38回通常総会が石川県金沢市で開催され、出席した。翌7日は観光やゴルフが日程に組み込まれていたが、私は失礼して、七尾線に乗って岩動家のルーツである石動山(せきどうさん565メートル)に行ってきた。

石動山は建武と天正の時代の2回焼き討ちにあっているがそのたびに復興し、山岳信仰の中心として繁栄をつづけていた。最盛期は天王寺をはじめ300坊以上の寺が建てられ、一大勢力を誇った。明治維新により「神仏分離令」が発せられ、寺領没収や僧侶の還俗により、石動山は経済的・宗教的基盤を絶たれ、僧侶たちはほとんどの堂舎・仏像・仏具などを処分して山を離れ、ついに明治7年に石動山は瓦解した。現在は、

いわて医師協同組合副理事長
岩動 いするぎ たかし
孝

石動山散策



伊須流岐比古神社鳥居



唯一「旧観坊」という小さな坊を残すのみで昔の面影はない。その後、昭和53年には国指定史跡に指定され平成14年には大宮坊の御成門や台所棟が復元されている。「天平寺縁起」によると、『その昔天空から星が落ちてきて3個に分かれ、ひとつは天竺に、ひとつは中国に、もうひとつは天平寺に落ちて大地をゆり動かした。それから天平寺の山号を石動山とした。今も石動山の伊須流岐比古神社に、動字石といわれる大石があり、異変があるときこの石が動く』という。この伊須流岐比古(いするぎひこ)神社から石動を、いしゆるぎ↓いするぎと読むようになった、といわれている。

天平10年(1582年)、前田利家が石動山を焼き討ちにした時、天平寺の僧侶は日本全国に逃亡した。村上元三の「流雲の賦」によると、心ある僧侶は石動山の荒廃を見かねて全国に布教行脚に出かけた、とも言われる。逃れたのか、あるいは布教のためか定かではないが、いするぎ法師のひとりは今岩手県紫波郡紫波町北日詰の地に住みつぎ、1593年に「阿吽山覚王寺」を中興開山した。それから時は移ろい、廃藩置県で南部藩が岩手県になった時、石動を岩動に変えたと言われている。紫波町の大日堂には「台橋巖動先生之碑」があり、台橋(明治26年没)の時からは岩動になったと思われる。

富山県の石動は前田利家が石動山を攻略した時、本尊である虚空蔵菩薩を人質代わりに持ち帰り、安置したことから「今石動(いまいするぎ)」と呼ばれたが現在は町村合併で小矢部市になっている(JR駅は石動のまま)。

地元研究家によると、全国に石動姓はたくさんあるが、400年前からの系図がはっきりしていて、現在もなお天台宗修験宗の僧侶として加持祈禱をも継承し、更に薬師(医師)を生業としている石動は、岩手県の岩動だけ、とのことである。



台橋巖動先生之碑



動字石

靈魂の町京都に住んで… 御神木の不思議？ 霊能者の感じる神木の気持？

私の生家は京都市内の昭和時代に新興住宅と云われる所にあった。成年に達する迄は其処に住んでいたが、縁あって現在の住所に移住してきたのが六十年前で

あった。登記の上では当時既に建築後百年を越えた家屋で、この頃良く映画、テレビに出てくる京町家の室内風景にそっくり、座敷に至っては床の間の在り方等、

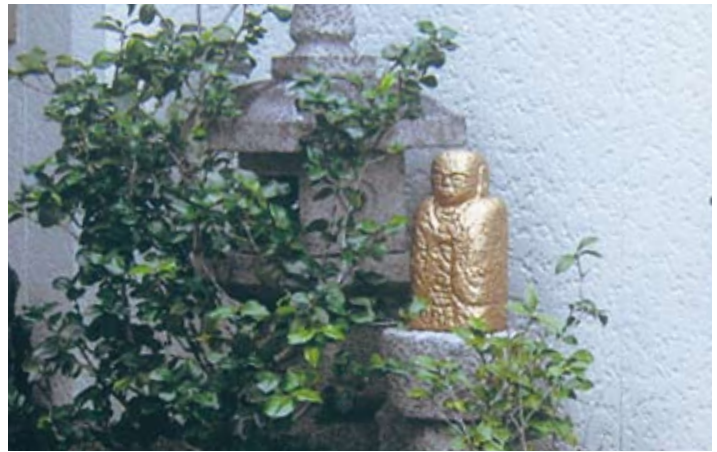


御神木の椿



武家屋敷にそっくりであった。住み着いて暫らくして近隣の状況が解ってきた。患者さんの中に一家一同が近所に引越してきて以来病氣続きでどうしたら良いか解らない一家があった。占い師に観てもらったところ礎石に問題有りとのこと、床下を調べて見たら礎石が墓石であった。この家の人はすぐに他所に移転された後は健康を取り戻された。

その後暫らくして私の家の二階を修繕することになって、大工さんが押入れを開けてみたら其処に封をされた「開かずの間」が発見された。土蔵壁の一部が明かり取りの細い窓になっていただけで、外部との連絡が一切とれない様になっていた。すると患者の老女がこの家はむかし「腰元が殿様の勘に触れて幽閉されていた」という伝説がある家ですよ。」と知らせてくれた。墓石といい、腰元幽閉と



ご近所の家の前にある厄除け仏像

いい、京都は不可解な謎に満ち満ちている地区である。殊に東山は庶民から皇室に至る各階層の人たちの墓の集まった所である。自分の家の話が続き恐縮であるが、その部屋を開放した後、息子の友人が遊びに来て麻雀をする事になり、場所を決める事になった。一人の友人が問題の部屋を背にする位置になった途端、すまないがこの場所変わって。」と言い出した。何かが後にいて寒気がする。憑依現象が起こりそうだ、との事。場所を変

わって何事もなく済んだが、彼は靈感の強い人で矢張りこの部屋に異常を感じると云っていた。その後はその部屋に霊除けの御札を貼って過ごしている。

一方私の屋敷の西南角、所謂「鬼門」と云われる所に椿の古木が立っている。出入りの植木屋さんに云わせると樹齢三百年以上の古木で、都会の真ん中にこのような椿のあることは珍しい事である、と聞いた。毎年赤い花を沢山咲かせてくれて、そんなに古い木なんだろうか。それにしては余りにも精神的な椿であるなあと疑う様な気持ちもあるが、我が家の大切な植木の一本である事に間違いはない。そして私の地区医師会の同じ班に女医先生がおられる。生年月日が私と非常に近い為、開業して入会されて以来親しくしている。初対面から何年後であったか、その先生と班会で偶然隣席になった。女医先生曰く、「松井先生、貴方の家の前を通るとき不思議な気分になるの。玄関の椿があるでしょう。今日のあの木は笑っていたわ。機嫌の良い日や悪いのが前を通ると良く感じるのよ。」との御託宣である。そして自ら霊能者であることを告げられて、学生時代に自殺した先輩の幽霊をみた事を始め、霊能者として縷々恐ろしい事や苦悩を語っておられた。その事以来、割合無頓着な私もこの椿を大切

に思う様になってきた。女医先生とお会いする度に今日の椿の機嫌が如何でした、良い機嫌でしたよ、と会話できる様な雰囲気であった。

この女医先生に云われて二十年程が経過した。私の医院に新任の事務職員がやってきた。二十代のピチピチした朗らかな女性で良く働いてくれる人であった。この人がまた靈感のある人で、沖繩へ観光旅行した際帰りの飛行機の中で憑依現象を起こし意識不明になったという。憑依したのは戦死した兵隊さんの霊であったという。この女性が勤務する様になって何時も部屋の事が気になると云っていた。幸いに椿の木のお陰で憑依現象は起こらないといって無事退職まで勤め挙げた。私としては霊障害のある家に住みながら、今まで一応無事にこられたのも御神木椿のお陰と感謝申し上げている毎日である。最近日本では霊能ブームとやらで陰陽師の安倍晴明師が引つ張り蛸である。また京都は土地を掘れば何か遺跡に突き当たるといえる。やはり京都の街は霊に満ちた町であるといえる。全国の皆さん、京都へ遊びにきて霊を感じて下さい。

※霊除けのお札を貼った部屋の写真は障りあるため掲載しません。

スケッチ随想/愛しき風景たち

〈第1回〉

思い出シネマ館

おおもり しゅんじ

大森 俊次

(京都保事協/事務局長)



鳥取砂丘

中学2年生の冬、『アラビアのロレンス』を見た。幼い頃から祖母に連れられて、たくさんさんのチャンバラ映画を見ていた僕が、おそらく初めて出会った「大人の映画」だった。この映画によって、いつも正しく明るく強い快傑黒頭巾だけが映画のヒーローでないことを、僕は知ってしまった。鳥取砂丘を灼熱のネフド砂漠に見立てるには無理もあったが、ピーター・オトゥールの苦悩と恍惚の表情を思い浮かべつつスケッチする時間が楽しかった。



尾瀬

デビッド・リーン監督が『アラビアのロレンス』の次に作った『ドクトルジバゴ』も高校生の僕に強い印象を残した一本だった。油絵で描かれた白樺林の四季がタイトルバックに映し出され、モーリス・ジャール作曲の音楽が流れるだけで、僕はいつべんにロシアの詩人になってしまった。尾瀬ヶ原の真ん中で白樺ごしに残雪の至仏山をスケッチした時も、ウラルの山荘で詩情にひたる主人公の気分になり、「ラーラのテーマ」を口ずさんでいた。



越後魚沼

魚沼市の重要文化財・目黒家の茅葺屋敷を訪ねた。あいにく雨降りだったが、「30分だけよー」の約束で妻が雨傘をさしかけてくれたおかげで、何とかスケッチできた。こういう時は二人旅がありがたい。さて無理矢理、映画話にこじつけるみたいだが、カラフルな雨傘が行き交うシーンから始まる『シェルブールの雨傘』も忘れられない映画の一本だ。今も鬱陶しい雨の日でも、ミシェル・ルグランの音楽を思い浮かべるとロマンチックになれる。



久多

フロンティアの終焉をネイティブアメリカン側から描いた西部劇『ダンスウィズウルブズ』は、主人公ダンバー中尉がスー族に別れを告げ冬の野営地を去ってゆく哀切のシーンで終わる。鯖街道を若狭へ抜ける途中、雪に覆われた久多集落をスケッチしていると、茅葺民家がスー族の天幕のイメージと重なり、ジョン・バリー作曲の音楽が耳の奥に流れた。この映画を見るたびに自然と調和したカントリーライフへの憧憬をかきたてられるのだ。

友が島

多感な青春時代に見たフランス映画『冒険者たち』にはパリの空を舞う複製機、宝探しの旧式帆船など、今見ても胸ふるえるシーンがいっぱいある。ラスト、要塞島に打ち寄せる波の音が余韻を残して「FIN」となる。紀州加太港から船に乗り、友が島の旧日本軍の残した要塞跡で『冒険者たち』を思いつつスケッチした。写生帖に残されてゆくこんな愛しき風景の数々が、僕にとっては、かけがえのない思い出シネマ館なのかも知れない。



組合員に喜ばれる組織・事業づくりのために 平成22年度事務局代表者会議開催



グループミーティング



討議発表

元禄15年の吉良邸討入には10日も早い12月4日でしたが、TKP東京駅日本橋ビジネスセンターへ三々五々集まった全国の医師協事務局の精鋭44名に、われわれ調査研究員3名を合わせると奇しくも47名。これだけで平成22年度事務局代表者会議に歴史的重みを感じてしまふのは一種の誇大妄想癖でしょうか。事務局代表者会議は今回で5回目となります。1回目(平成18年度)は「全国事務局局長会議」という名で招集されましたが、その時のテーマは緊急焦眉のものでした。翌19年4月実施が決まっていた「中小企業等協同組合法」改正によって、定款変更だけでなく事業・組織方針の転換までも余儀なくされていたからです。「中協法」改正問題を焦点に定めたこの会議を契機として、各医師協での対応課題が少しずつ明らかになったことは大変意義深いことでした。2回目(平成19年度)は、「中協法」改正の結果、必要となる具体的な事務対応の手立てを考えることがテーマとなり、財務諸表変更や定款変更実務のヒントを各医師協へ持ち帰ってもらいました。この2回の会議の中で明らかになったのは、第一に全国の医師協がそれぞれの創立経過や規模を異にしてはいても、組合員のための事業づくりに向けた組織使命、その実現に取り組

む事務局の悩みは共通するということが、第二にその悩みを相互交流することが求められていることでした。第3回(平成20年度)は、そんな事務局の役割と悩みに光をあてようという趣旨で開催され、円卓会議という手法を試みました。そして円卓会議についてのアンケート結果には、「私たちにも発言させてほしい」という意思が明瞭に示されました。第4回(平成21年度)に参加者が全員が対等に発言できるブレインストーミング手法を試みたのは、紛れもなくこれに因應するためです。以上4回の結果を踏まえて、調査企画部ではさらに意義ある代表者会議にするにはどうすべきかを検討し、今回の開催に至ったわけです。

以上を若干の前置きとして、第5回(平成22年度)事務局代表者会議の開催状況について報告させていただきます。参加者は先述の四十七士に全医協連役職員の皆さん18名を加えた65名でした。第1日目(12月4日)は、竹川雅美調査研究員を司会に戸早雅弘部会長の開会挨拶で午後3時に始まりました。冒頭、恒例となった全医協連/小林照尚会長による「全医協連の現況について」のご報告がありました。小林会長は、「保険業法」改正案が国会を通過し、自家共済復活の可能性が出てきた情勢を



講師 樋口兼次先生



全医協連 小林会長



調査企画部 戸早部長

説明され、今後プロジェクトチームによる検討を開始したいという方向を示されました。

つづいて白鷗大学経営学部・大学院教授／樋口兼次先生による講演「サービズ社会の協同組合／高まる社会的機能」を拝聴しました。樋口先生は、第一に工業化社会の終焉、知識・サービス社会の到来という社会構造の基本変化の諸相について、第二に大きく変化した社会において古典的な協同組合の理念と原則がいかに活かされるのかについて、第三に企業・事業形態の多様化の中で見えてきた協同組合の新たな可能性とそこに求められる組合事務局の機能について、という膨大な内容を90分一本勝負でアカデミックにかつ精力的に語っていただきました。講演を聴くことで、ややもすれば日常業務に役立つ実務的・具体的な知識や技法を求めがちな事務局職員にとって、大きな視点から社会環境を眺め、理念や原則を検証することの大切さを再認識する機会となりました。

講演の余熱覚めやらぬ午後5時、抽選で決められた10グループに分かれてグループミーティングに移りました。自己紹介やリーダー・発表者の選出などから始まりましたが、その後90分間、それぞれのミーティンググループは一種

の密室状態、その中でいったい何が起こっていたのか、それはそれぞれの参加者しかわかりません。そしてその真実の姿が明らかになるには、翌日を待たねばなりませんでした。

そんなミステリーを秘めながら、午後6時40分、あいにく風邪で声が出にくくなった萩原 淳調査研究員に代わって急遽友情出演の竹川調査研究員を司会に、岩田章男専務理事の開会挨拶、鮎川 魏副会長の乾杯音頭で懇親会が始まりました。ご臨席いただいた講師／樋口先生の周辺では、講演についての質問や同意・反論を含む意見も飛び交い、その一つ一つに真摯に対応される樋口先生の誠実・謙虚な姿勢が印象に残りました。参加者はそれぞれに好みの飲み物、好みの食べ物、好みの話し相手を求めて彷徨し、立食パーティーならではの楽しい交流のひとつとときに閉会となった午後8時、飲み足らない人、食べ足らない人、語り足らない人などの後姿が、首都の灯りの中へ消えてゆきました。

明けて第2日(12月5日)、午前8時30分に前日と同じメンバーがミーティンググループで顔を合わせました。グループミーティングもそろそろまとめに入らなければなりません。それぞれ密

室のドアの奥からそんな怪しげな熱気が立ち上っていました。

10時15分、全体会議が調査研究員の末席をけがす大森の司会進行で始まり、10グループの二日間にわたるグループ討論の内容が順次発表されました。グループメンバーはそれぞれに規模・歴史・組織事業内容を異にする協同組合に身を置いたため、一様の結論が得られたいわけではありませんが、お互いの知識と経験を交流しながら積み上げられた討論内容は、拝聴するに値するエッセンスがいっぱいありました。本来なら、このグループ発表をもとに全体討議ができればよかったです。ところが、所要時間も司会者能力もそれには不十分であったことが申し訳なく残念でした。「社会環境が変化する中、医師協のあるべき姿を今一度見直して欲しい。事務局代表者会議がそれを考えるための機会となることを願っています」との戸早部会長の総括発言、眞瀬 静副会長の閉会挨拶で12時に終了しました。全国各地に帰って行かれた事務局の皆さん！理念と現実の狭間での悩みと葛藤の中にこそ、協同組合の本質があり、その一端を担っている者のロマンがあることを忘れることなく、また再会しましょう。

(文責：調査企画部調査研究員／大森俊次)



うらさき ひこし
浦崎 彦志(那覇市)

「斉場御獄-三庫理」油彩F120号

沖展会員

沖縄県南部の知念半島にある斉場御獄(せーふうたき)は琉球の始祖「アマミキョ」が造ったとされ、国始めの七御獄の一つとされる琉球最高の聖地である。3つの拝所が集中する最奥部の三庫理(さんぐーい)にはチョーハナ(京のはな)という最も格の高い拝所があり、クバの木を伝って琉球の創生神であるアマミクが降臨するとされる。三庫理からは王国開闢にまつわる聖地久高島を遠望することが出来る。



ながた のぶひろ
長田 信洋(那覇市)

「心臓外科医の手」油彩F6号

(県立南部医療センター・
こども医療センター
小児心臓血管外科)
新生児開心術、神の領域が垣
間見れる瞬間。

いとう ひでお

伊藤 英雄 (愛知県名古屋市長)

「ヌーに魅せられて」

約5年前、アフリカ旅行に誘われてから既に5回を数える。当初はキリマンジャロの山を撮るつもりでいたが、今はその下に広がる、原野に生きる動物たちの生態の写真撮影にすっかりはまってしまった。アフリカと言えば、ライオンやチーターなどの見栄えのする猛獣であり、また象やキリンなどの大型の動物であるが、今の私には、その主役はヌーである。顔が牛にそっくりでヤギのようなヒゲを持つ不思議な牛科の動物。ケニア、タンザニアの国内だけで、約四百万頭と数え切れない数がいる。彼らの生活、生態は、その一つ一つが劇的であり、生きる厳しさがひしひしと感じられる。春に子供を産み、季節が変わると新しい草を求めて何百キロを一族郎党、子供を守りながら移動する。移動の隊列は、誰の命令があるわけでもないのに、広大なサバンナの原野を行儀良く、真一列に並んで移動する。その途中ではワニの潜む川、それも高い川縁の崖を降りるといよりは落ちるようにして水の中へ飛び込んでいく。運悪く、ワニのエサになるやつ、また草原でライオンのエサになるやつもいる。こんな中でも黙々と隊列を組んで新しい草を求めて新天地へ向かう。最後の運命は何かに食われるという運命。彼らがあって、はじめて東アフリカの生態系が成り立っている。

(Nikon D200またはF100にて撮影)

